総体 新聞で盛り上げ

地元倉敷会場の水球特集

県立倉敷天城高校（倉敷市藤戸町天城）の生徒会役員が、2016年夏に中国5県を主会場に開かれる全国高校総体（読売新聞社共催）を紹介する新聞を発行した。地元が会場の水球を特集し、「倉敷は水球のまち」と紹介。今後は出場選手のインタビューなども予定しており、役員たちは「大会を盛り上げたい」と力を込める。

（望月尭之）

A3判1ページの「読んでみられぇ！インハイ新聞」。カラーで4本の記事を掲載し、特集のタイトル「水球のまち倉敷」は、特産のデニムの色にするなど、親しみやすいレイアウトを心がけたという。

「インターハイとは」では、県を中心に開催されるのは1977年以来、39年ぶりで、県内では9種目が行われると説明。「What is 水球？」と題する記事では、図を使って水球のルールを解説し、「水中の格闘技」と呼ばれるほど激しい試合の見所を紹介している。

さらに、大会をPRする活動にも焦点を当て、会場の児島マリンプールに設置された横断幕を、写真を添えて紹介。「『白壁の町倉敷』に加えて『水球のまち倉敷』として知られる日はそう遠くない」と結ぶ。

次号に向けて話し合う星島さん（中央）ら（倉敷市の県立倉敷天城高校で）

天城高生徒会 第1号1000部発行

新聞作りを提案したのは、生徒会長の2年星島流偉君（17）。同プールが水球の会場になったことを、同じ高校生なのに知らない友人が多く、「1人でも多くの人に広めたい」と考え、じっくりと読んでもらえる新聞を選んだという。

ほかの役員4人と10月から取材を始め、市役所や市の実行委員会の担当者らに話を聞き、インターネットなどでも情報を集めて執筆。11月26日に第1号約1000部を完成させた。

市内の高校全てに配布したほか、市役所や運動施設にも送った。星島さんは「新聞を読んで、少しでも水球に興味を持ってもらえたら」と期待する。第2号以降は、運営に携わる高校生や出場選手への取材も考えており、「競技の魅力が伝わる紙面にしたい」と意欲を見せる。